

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は28.65(1948例)、全国では38.89で、共に第44週に流行発生警報の開始基準値(30.0)を超えたのち、継続基準値(10.0)以上を満たしているため、警報は継続中です。年齢群別割合をみると、「5～9歳」、「10～14歳」、「0～4歳」の順に多くなっており、第40週以降、「0～4歳」の増加が続いています。なお、京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した45例のうち、37例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(8例は陰性)。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、本年初めてのHUS発症者です。感染症法に基づく届出の対象となった平成11年4月以降、HUS発症者数は6例(平成12年、平成14年は各1例、平成18年、平成20年は各2例)です。

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

平成21年7月から9月末までに、新たにAIDS患者(6例)及びHIV感染者(4例)の報告があり、平成21年のAIDS患者及びHIV感染者を合わせた後天性免疫不全症候群の累積報告数は、20例となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類: 結核 2例(肺結核 2例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)
【1月以降の累積報告数 358例(肺結核 230例, 肺外結核 84例, 無症状病原体保有者 44例), (喀痰塗抹陽性 111例)】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 83例】
- ・ 五類: ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 5例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	28.65	1948
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.51	103
	② 水痘	0.78	32
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	20
	④ 手足口病	0.41	17
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

病原体情報

ありません。

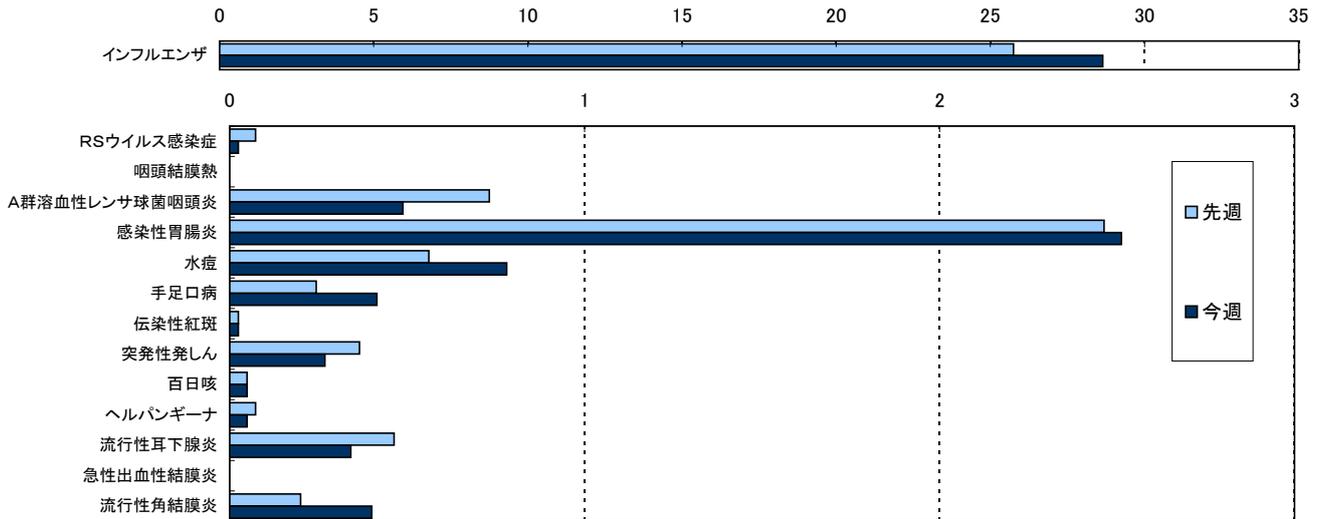
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

(注) 京都市のデータは、平成21年11月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

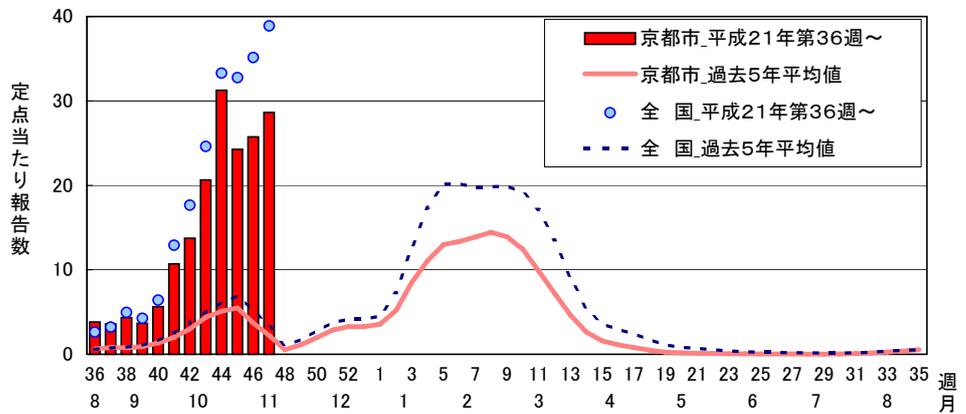
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第47週)と先週(第46週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

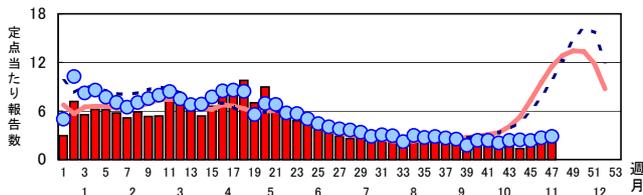
週	報告数(例)
第43週	1404
第44週	2126
第45週	1650
第46週	1751
第47週	1948
累積報告数 (第36週以降)	11974



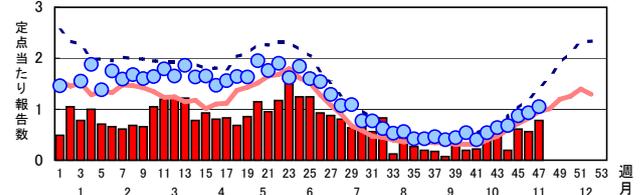
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

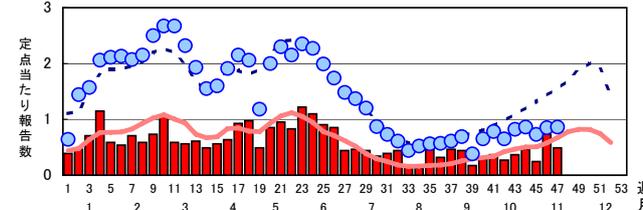
1 感染性胃腸炎



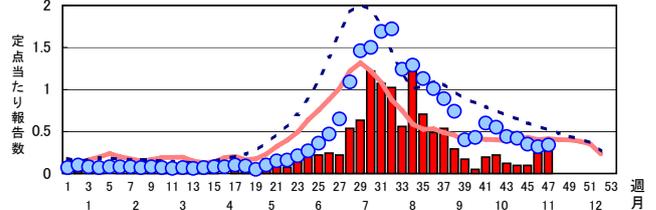
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

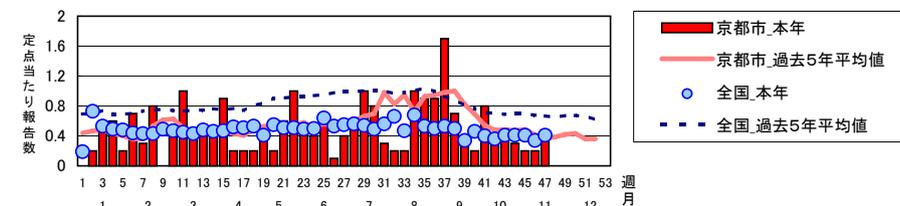


4 手足口病



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第47週(11月16日～11月22日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

平成21年7月から9月末までに、新たにAIDS患者(6例)及びHIV感染者(4例)の報告があり、平成21年のAIDS患者及びHIV感染者を合わせた後天性免疫不全症候群の累積報告数は、20例となっています。

年次別に報告数の推移をみると、平成18年以降、毎年20例以上の報告が続いています。AIDS患者(10例)については、過去10年の年間報告数と比較して最も多くなっています。

平成21年の累積報告数(1月～9月)の20例の詳細をみると、

- ① 型・性別では、AIDS患者、HIV感染者は各10例ずつで、すべて男となっています。
- ② 型・年齢階級別では、30歳代が最も多く、AIDS患者は平成11年以降、初めて70歳代からの報告があります。
- ③ 型・推定感染経路別では、AIDS患者で、同性間、異性間の性行為感染が各3例あったほか、静注薬物使用の報告が2例あります。HIV感染者では、性行為(同性)が8例と多くなっています。

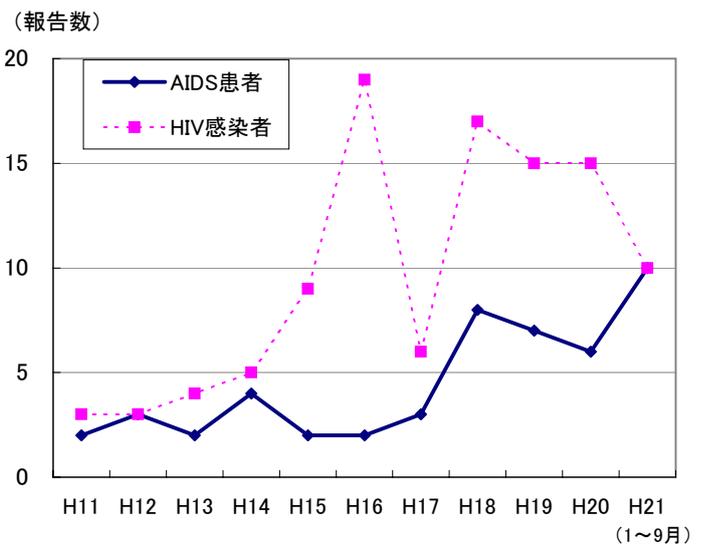
12月1日は「世界エイズデー」です。京都市では、12月5日(土)午後1時から午後5時まで、新風館においてエイズまん延防止のためのキャンペーンを行いますので、ぜひお越しください。

また、京都市では、性感染症検査(梅毒、淋(りん)菌、クラミジア、肝炎ウイルス[B型、C型])を同時に受けることのできる平日昼間検査(市内各保健所、予約不要)、HIV土曜検査(財団法人京都工場保健会、予約制)、夜間HIV即日検査(下京保健所、予約制)を無料で実施しています。

詳細については、<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html> で御確認いただけます。

年次別 年間報告数の推移(平成11年～平成21年9月まで)

	総数	AIDS患者	HIV感染者	男	女
平成11年	5	2	3	5	
平成12年	6	3	3	5	1
平成13年	6	2	4	6	
平成14年	9	4	5	8	1
平成15年	11	2	9	11	
平成16年	21	2	19	18	3
平成17年	9	3	6	9	
平成18年	25	8	17	23	2
平成19年	22	7	15	19	3
平成20年	21	6	15	18	3
平成21年 (1月～9月)	(20)	(10)	(10)	(20)	(0)
総計	155	49	106	142	13



平成21年(1月～9月)の累積報告数 (n=20)

(型別、性別、年齢階級別、推定感染経路別)

		AIDS患者	HIV感染者
性別	男	10	10
	女	0	0
年齢階級	20歳代	0	2
	30歳代	6	6
	40歳代	2	0
	50歳代	1	2
	60歳代	0	0
	70歳代	1	0
推定感染経路	性行為(同性)	3	8
	性行為(異性)	3	2
	静注薬物使用	2	0
	不明	2	0

参考:年代別 年間報告数の推移(平成11年～平成21年9月まで)

